

第2期津市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標の評価及び今後の取組の方向性

基本目標① 出会い・結婚・出産・子育てしやすい環境づくり								
津市に住み、結婚したい、子どもを産みたい、子どもを育てたいと思う人たちの希望がかなう環境づくりを進めます。								
数値目標	計画策定時 (H30年度)	目標値 (R 6年度)	実績値					
			(参考)R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
出生数	2,080人／年	2,200人／年	1,933人／年	1,848人／年	1,759人／年	1,722人／年	人／年	人／年
委員からの意見	婚活イベント参加者の年齢層は主に30代前半となっているようだが、もっと若い方々にご参加いただき、若い年代で結婚された方が出生数が増えるのではないかな。 今は考え方も多様になってきており、結婚しても子どもを持たない選択肢もあるので、婚活イベントが出生率向上に直結するわけではなく、住みやすさなど他の要素が出会い・結婚・出産などに影響することを考慮する必要があるのではないかな。		評価と今後の取組の方向性		全国的な傾向と同様に、本市における出生数も婚姻件数の減少や晩婚化等の影響によって減少傾向となっており、令和4年度の出生数は1,722人（前年度比▲37人（▲2.1％）、目標比▲478人）となった。令和元年度から令和3年度にかけては新型コロナウイルス感染症の影響を受けて出生数が毎年90人近く減少しているが、それに比べれば令和3年度から令和4年度にかけての減少幅はやや小幅になっている。 今後も引き続き、結婚したい、子どもを生みたいと思う人たちの希望がかなうよう、出会い・結婚の支援や妊娠・出産から子育てへと切れ目のない支援をさらに進める。			

基本目標② 産業振興、企業立地等による安定した雇用の創出・拡大								
津市で家庭を持ち、安定した暮らしをしたいという人の希望をかなえるために必要となる雇用の創出・拡大を図ります。								
数値目標	計画策定時 (H30年度)	目標値 (R 6年度)	実績値					
			(参考)R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
従業員数 (雇用保険被保険者数)	91,653人／年	95,200人／年	92,294人／年	91,191人／年	91,141人／年	90,622人／年	人／年	人／年
委員からの意見	市内中小企業の人材育成支援について、中小企業1社で大学の講座などを受講するのは難しい場合があるので、共通のテーマがあるのであれば数社をまとめるなど、高等教育機関と連携することでテーマに合わせた形を作り上げることができないのではないかな。 企業誘致について、さまざまなリスクや津市の地理的優位性について先を見据えた設計で用地を確保することが非常に重要になるのではないかな。 企業誘致に当たって労働力の確保が重要であり、通勤面の課題解消などに市として取り組んでもらえると良い。 若者に集まってもらうには、世代ごとの価値観の違いを考慮したまちづくりが重要なのではないかな。		評価と今後の取組の方向性		令和元年度までは、緩やかな景気回復基調を受けた全国的な雇用の拡大によって雇用保険被保険者数は増加傾向にあったが、令和2年度はハローワーク津管内で雇用保険適用事業所であった企業が組織変更に伴い事務手続が他県に移管された影響もあり、雇用保険被保険者数が大幅に減少した。その後、雇用保険被保険者数は前年度比で微減が続き、令和4年度は90,622人（前年度比▲519人（▲0.57％）、目標比▲4,578人）となった。 今後も引き続き雇用創出を図るための産業振興や創業支援等、持続可能な地域経済を維持していくための事業承継支援をさらに進めるとともに、物価高騰等の影響を受ける事業者等への支援にも取り組む。			

基本目標③ 定住・還流・移住などによる新たなひとの流れの創出								
津市への定住や移住、交流といった観点からの、津市への新たなひとの流れの創出を図ります。								
数値目標	計画策定時 (H30年度)	目標値 (R 6年度)	実績値					
			(参考)R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
転入超過数 (転入数－転出数)	1人／年	100人／年	87人／年	▲386人／年	▲13人／年	384人／年	人／年	人／年
委員からの意見	市内の優良企業や奨励金制度などに関する情報を高校在学中に知ってもらう機会が必要ではないかな。 U I J 関係の奨励金について、物価高騰の影響を踏まえ、支援金額を見直すなど学生に興味を持ってもらえるよう内容を検討した方が良いのではないかな。 移動販売のように市民の買い物を助けるようなシステムがあると、より住みやすくなるのではないかな。 大学生や若者たちが授業ではなかなか触れることができない生の外国語に触れられる機会として、ボランティアを通した日本語教室を増やしてほしい。 南伊勢町ではインターンシップ参加者に対して一泊2,000円の補助を行っているが、本市においても同様の制度があれば、企業や地域について知ってもらうきっかけになるのではないかな。		評価と今後の取組の方向性		令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症の影響によって外国人の転入者数が減少したこともあり、全体として転入超過となったが、令和4年度は転入者数、転出者数ともにコロナ禍前に近い水準まで回復し、転入超過数は384人（前年度比＋397人、目標比＋284人）となった。日本人の移動に着目すると、令和3年度と比較して転入超過数が増加しており、依然として20～29歳の階級の県外への転入超過が多いという傾向となっているが、コロナ禍前の令和元年度ほど多くはなっておらず、令和2年度に近い状況となっている。 今後も引き続き転入促進や転出抑制を図るため、新たな企業誘致に向けた取組を進めるとともに魅力ある地元企業や子育て環境に関する情報を積極的に発信し、認知度を高めることに加え、企業と求職のマッチングなど就職（転職）のタイミングでの転入促進に係る支援をさらに進める。			

基本目標④ 人と人が繋がった暮らしやすい地域づくり								
地域に暮らす人たちが明るい将来を思い描き、互いに支え合い、笑顔があふれる地域づくりを進めます。								
数値目標	計画策定時 (H30年度)	目標値 (R 6年度)	実績値					
			(参考)R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
市政アンケート等で「津市は住みやすい」と回答した人の割合	81.4％	90.0％	-	-	-	79.9％		
委員からの意見	意見なし		評価と今後の取組の方向性		新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に実施予定であった市政アンケートは見送りとなり、令和4年度に実施した市政アンケートでは令和30年度から1.5ポイント減少して平成26年度の80.1％とほぼ同水準となった。 令和4年度のアンケートにおいて、津市のイメージとして「自然環境に恵まれている」（83.4％）に次いで「日常の買い物が便利である」（55.8％）、「地域での人間関係が良い」（53.9％）、「医療機関が充実している」（52.3％）、「上下水道などの生活環境施設が整っている」（52.2％）という評価になっていることから、今後も地域福祉の充実や安全で安心して暮らせる地域づくりに向けた施策を着実に推進していく。			